

根羽村と各団体のかかわり

■明治用水土地改良区

大正3年：水源かん養林を購入。造林事業を行う。

■安城市

昭和57年：茶臼山に安城市野外教育センターを開設。

平成3年：「矢作川水源の森」分収育林契約を締結。

■アイシングループ

「森の里親制度」による森林づくり。



根羽村から子どもたちに雪のプレゼント。
毎年さまざまな形で交流が行われている。

もし、川の上流に人が住まなくなってしまうたら、どうなってしまうと思いますか？ 川の水を作る山林は、常に人が手入れしなければいけません。自然のものだからといって、放っておいて良いものではないのです。間伐を行い、十分な光を取り入れてあげなければ、地表が荒れ、土砂が流れ出してしまいます。水を守るには、人の力が必要なのです。

近年、都市と農村の格差拡大が社会問題となっています。全国の水源を持つ自治体の多くが、人口の減少や高齢化に悩んでいます。

これからは「水の時代」。今まで以上に、水資源の大切さが叫ばれるようになるでしょう。しかし、水の巡りのどこか1か所

インタビュー 流域は運命共同体

でいるのです。水の問題は、上流だけでなく、下流の自治体にも影響を及ぼします。これからは、川の流域一帯が「運命共同体」とな

でも、おかしくなれば、川はダメになってしまいます。きれいな水を守るには、上流のは、上流のわたしたちが努力するだけでなく、下流の皆さんの理解も必要なのです。

根羽村長 小木曾亮弐さん

根羽村水源の郷基金にご協力を

根羽村の環境保全、地域振興に、村の内外を問わず参加することが出来る仕組みとして「根羽村水源の郷基金」が設立されました。わたしたちの使う矢作川の水を守るためにも、ぜひ寄付にご協力ください。

■寄付金はこうに使われます

- 水源・森林保全、自然エネルギーの活用など環境保全に関する事業
- 森林・林業に関する技術普及、遊休耕地の利活用、山林文化・木工芸術の継承など自然を生かした地域振興に関する事業
- 住民の助け合いや福祉の充実に関する事業

■寄付金の申し込みは

申請書を電話またはホームページでお取り寄せください。

●問い合わせ 根羽村役場

(02695)492111
http://www.nebamura.jp

水源の森を守る

矢作川の水源に位置する長野県根羽村。人口1000人余りのこの村では、村民のほとんどが山林を所有し、その保全を行っています。まさに村が丸となって水源を守っているのです。また、わたしたち下流側からの水源を守る動きもあります。大正3年に「水を使うものは、水を作れ」という考えにより、明治用水を管理する「明治用水

土地改良区」が、根羽村内の山林を購入。これは、まだ環境の問題がクローズアップされることもなかった当時としては、画期的な事例でした。平成3年には、伐採の危機にあった官行造林地の立木を、根羽村と安城市が協力して取得。その森を「矢作川水源の森」として、30年間共同管理することとしました。このほかにも、民間企業との協働による森林づくりなど、さまざまな団体が、水源の保護に取り組んでいます。



矢作川水源の森には遊歩道があり、散策を楽しむことができる。

インタビュー 川は宝

この付近では、上から川をのぞくと、泳いでいる魚が見えるくらい水が透きとおっています。よく、遠くから釣りに来る人に「アユがおいしい」といわれませんが、これも、水がきれいなおかげなのかもしれません。

さて、この村に住む人は、いわゆるポイ捨てをすることがありません。みんな、ごみが川に流れてしまうことを知っているからです。最近では、釣り客にもごみ袋を渡して掃除をして



根羽川漁業協同組合副組合長 浅井俊男さん

もらっています。だんだんマナーが良くなってきたように感じます。みんなに、この川は自分たちの川でもあるという認識が、浸透してきたのではないのでしょうか。



⑦根羽村の木「杉」。伐採された木材は、村内で加工され建築材となる。根羽村で育てられた杉材は根羽杉のブランド名で呼ばれており、鮮やかな赤みが特徴。

⑧樹齢1800年の巨木「月瀬の大杉」。国の天然記念物に指定されている。